



九月前半は、七月のユーロ圏の失業率は一〇・九%に低下、二〇一二年二月以来初めて一%台を下回ったこと。

橋本健一郎氏

八月の中国製造業PMI改定値は四七・三、七月の四七・八から低下、二〇〇九年三月以来、六年ぶりの低水準だったこと、中国国家統計局が十三日発表した八月の主要経済統計によると、建設・設備投資の傾向を示す固定資産投資は一〇八月に前年同期比一〇・九%増にとどまり、伸びは二〇〇〇年通年以来の低水準だったことなどのマイナス材料もあつたが、ECBのドラギ総裁は三日の定期理事会後の記者会見で、必要ならば国債購入を含む量的緩和の期限を延長することを示唆したこと追加的筋輪緩和に対し前向きなコメントをだしたことなどのプラス材料を受けてLMEアルミ相場はU.P.、九月十五日時点、六〇六・五〇ドル(現物後場買い)と月初価格から一二・五ドルUPの前半締めとなつた。

後半は、七月のユーロ圏貿易黒字は三一四億ユーロ、前年同月の二一二億ユーロから拡大したこと、IFO経済研究所、独経常黒字は過去最高の一、五〇〇億ユーロに達する見通しを発表した事、九月の米消費者信頼感指数報値は八七・二に上方修正、予想は八六・五だつた事など企業利益は前年比八・八%減、二〇一年の調査開始以来最大の落ち込みだつた事。九月の独ZEW景気期待指数は一二・一に低下、予想は一八・四だつた事、注目のVW排ガス規制不正問題でVWに続いてBMWも一部検査基準を大きく上回るものもあつたとの報道などを嫌気しDOWN、十月六日現在LME(現物後場)一、五四六ドルと後半スタート価格から四六ドルDOWNしてのスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート (TT\$)
一二二・一七→一二〇・六九(円)

◆自動車生産台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽は除く)は、二〇一四年比二・八%増の八万〇、二五五戸で、前年同月比で八・八%増なつた。また、季節調整済年率換算値では九三・一万戸(前年比一・八%増)となつた。

◆貿易関連指標
輸出
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が

自動車関連の動向が懸念要因に

橋本金属 橋本健一郎氏リポート②

アルミ輸入、内需低迷などで減少

橋本金属 橋本健一郎氏
・アルミ

前年比二一・三%減の一四八t、一次合金が二七・八%増の一、四七五t、前月比でスクラップが二三・八%減の八、三八五t、アルミ缶が一四・一%減の四、〇〇七t。

輸入

輸入は新地金が前年比二九%減の九万五、五〇〇t、二次合金が一三・六%減の七万八、八七七t、スクラップが三一・一%減の七四七t、合金スクラップは五〇・九%減の二、八〇二t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比〇・六%減の一四万八、六一三t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比五・二%減の五万六、九二三tであった。

■概況

八月の四輪車生産台数は六〇万四、九七四台で、前年同月の六三万四、八三三台に比べて二万九、八五九台(四・七%)の減少となり、一四カ月連續で前年同月を下回つた。

八月の車種別生産台数と前年同月比は次の通り。
乗用車五〇万九、五〇五台で二万四、三九八台(四・六%)の減少となり、一四カ月連續のマイナス。このうち普通車は三一万一、〇六九台で七七〇台(〇・二%)の増加。小型四輪車は一〇万九、五九三台で一、〇一二台(〇・九%)の増加。軽四輪車は八万八、八四三台で二万六、一八〇台(二二・八%)の減少。
八月の国内需要は三二万七、〇四九台で、前年同月比一・九%の減少であつた。うち乗用車二七万一、三八六台で前年同月比三・五%の減少、トラック五万四、六二三台で同六・八%の増加、バス一、〇四〇台で同六・一%の増加。

輸出は前年同月比〇・一%の減少。(実績)

■自動車販売
九月の国内自動車販売台数(軽は除く)は、二〇万五、八〇二台で前年比三%減。(カ月ぶり再びマイナス。うち乗用車三・二%減、貨物二・一%減、バス三・七%増)。

■住宅着工戸数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽は除く)は前年比三%減の三〇万五、八〇二台。国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比八・八%増の八万〇、二五五戸であった。

■自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽は除く)は前年比三%減の三〇万五、八〇二台。国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比八・八%増の八万〇、二五五戸であった。

(六面へ続く)

(四面より続く)

・住宅着工の動向については、前年同月比で六ヶ月連続の増加となつており、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れ、持ち直しているとみている。

・反動減の影響が大きかつた持家は、前年同月比で四ヶ月連続の増加となつた。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

生産は前年比五・二%減の五万六、九三二t。一ヶ月連続マイナス。出荷は四・一%減の五万八、四四八tで、一ヶ月連続マイナス。出荷先別では、铸物六・五%減、ダイカスト二・五%減、板〇・一%減、押出二・八%増、鉄鋼一三・四%減、合金地金メーク八・一%減。

【アルミニウム圧延・押出品生産数】

○・六%減の六ヶ月連続マイナス、一四万八、六一三t。

【輸入】

アルミニ新地金が前年比二一・三%減、二次合金が二七・八%増、スクランプが二三・八%減、アルミ缶が前月比一四・一%減。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き大減少の四・七%減。九月の国内販売台数が前年比三%減。生産が一ヶ月連続マイナス、期待の販売が再び一ヶ月ぶりマイナス。生産がついに一年間以上前年割れとなつた。販売の方が一ヶ月ぶりに再びマイナス。今後生産・販売とともにマイナスが続くか注視が必要。

・平成二十七年八月の住宅着工戸数は八万〇、二五五戸で、前年同月比で八・八%増なつた。また、季節調整済年率換算値では九三・一万戸(前月比一・八%増)となつた。

・利用関係別みると、実数値では、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となつた。季節調整値については、前月比で持家、貸家で減、分譲住宅で増となつた。・住宅着工の動向については、前年同月比で六ヶ月連續の増加となつており、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の影響が薄れ、持ち直しているとみている。

・反動減の影響が大きかつた持家は、前年同月比で四ヶ月連續の増加となつた。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れているとみている。

思われる。引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、自動車関係の悪化を受けて減少。唯一、二桁プラスの輸出に期待。

・輸入は内需の低迷や円安から減少。・輸入は内需の低迷や円安から減少。

【スクランプ需給予想】

先月に続き、流通在庫はここ最近の急落を受け、問屋に塩漬け玉があるものの、価格が合わない事や生産減によるスクランプ発生難を受けて、置き場、資金面から急ぎで売る必要性ない。一方、メーカーは自動車販売がある一定量はあることから必要量の確保ができるない所もあり在庫は薄くなるため、需給は引き締まるとの予測。

【価格・為替予想】

今月は、VW排ガス規制不正問題、そして米国の利上げ問題に左右される。

VW社の排ガス規制不正問題は一部報道によればBMW社まで普及する可能、またアメリカだけの不正だけでなく他国での不正の可能性もあり現在も調査が続いている。

仮にこの問題が長引けば欧州経済全体を揺るがしかねない問題だけに注視している

米利上げ時期に関しては、十月説は、米経

済指標は堅調ではあるが、中国バブル崩壊の機運が高まる中、今行う可能性は低いのではないか。それらを踏まえた十月のアルミニ価格は、VW社排ガス不正問題が現状から広がらず米当局との話し合いが付き制裁金等の支払い終了し、米国が今月の利上げを行わなかつた場合、九月高値一段高の一、六五〇ドルを予測。いずれかの場合一、五五〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合もう一段安値の一、四〇〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて新たに十月説が台頭しているが、中国バブル崩壊の機運が高まる中今月行われる可能性は低いのではないか。それらを踏まえ予測は、上値はアメリカが十月の利上げを行つた場合、中国バブル崩壊が早まる事や新興国からの資金吸い上げそれに伴うドル高の加速判断から大幅円高の一八円台を予測。下値は利上げを行わなかつた場合ほぼ現状と変化なしとの判断から一二〇円台。

メークースクラップ購入価格は〇・マイナス五円と予測している。